護持会だより

編集・発行　放光院護持会
発行日　２０２２．８．27

放光院護持会の動向

7月１４日（木）pm６：００～
放光院護持会運営委員会

運営委員会では、今年の主だった活動について話し合われました。

①８８ケ所石仏巡り**「７９番の改修」**→桜の根が盛り上がり全体的に台座が沈下しているため、夜久野町観光協会の補助金や護持会役員の衣川茂男氏の労力奉仕で今秋には修理改良工事を終える予定です。　**②石仏巡り案内板の増設**→梁瀬地域自治協議会の地域観光支援事業の約半額の補助金で９月頃に約２０枚設置予定。　③放光院境内の**地蔵堂屋根ペンキ塗り替え**→ペンキが剥がれかけているため　④護持会から製作依頼をしていました**「ベンチ付顔出し撮影パネル」**が完成し放光院境内に寄贈・設置されました。新たな観光名物として期待します。　⑤石仏巡りの記念品について（一例：手の平サイズの焼き物地蔵、何か記念になる物を考えてみることになりました）　⑥情報→朝来市の夜久野高原基盤整備事業により「内藤塚」近辺に７ｍ 幅の基幹農道が着きます。周辺の環境が大きく変わります。今回の掲載記事の進捗状況は次号でお知らせします。

1

2

W250 ㎜
H500 ㎜

3

4

8月２日付　両丹日日新聞掲載記事より

完成した石仏巡りのベンチと的場さん（左）、福本さん

高原八十八カ所石仏巡りベンチを製作

夜久野の的場渡さん　放光院護持会に寄贈

福知山市夜久野町高内の的場渡さん（69）が、「夜久野高原八十八カ所石仏巡り」をテーマにした大型ベンチを仕上げた。依頼を受け、廃材を利用して製作したもので、夜久野高原の京都府、兵庫県の府県境付近にある放光院（夜久野茶堂）に近く設置される。的場さんは今春、古い家具などを再利用して木製ベンチを手作りし、希望する自治会などに無償提供した。用意した20脚余りはすぐさまなくなるほど好評だった。そんななか、放光院を管理する護持会（福本辰志会長）からも強い要望があり、自宅の作業場で約2カ月かけて製作した。

大型ベンチは高さ約2・3㍍、幅約1・3㍍、奥行き約90㌢。調達した木製パレットを主に使い、大人3人ほどが座れるベンチを組み立て、後ろにパネルを取り付けた。全体が栄えで感激しています。お堂の前の目立つ場所に置いて、多くの方に使っていただけるようにしたい」と喜んでいた。

的場さんは「高原の名所の活性化につながればうれしいと思い、引き受けました。ベンキだけでなく、防水や防腐のために柿渋やニスも塗って完成させました」と話していた。

福本会長は「楽しく、素晴らしい出来

宝山付近の石仏巡りコースを描いた。弘法大師像の顔の部分は取り外して、顔を出して記念撮影ができる。

高原の石仏巡りは、四国八十八カ所霊場と同じ名前の弘法大師像などが並んだ「8」の字を描く6㌔のコース。11月上旬には、昨年に続いて「石仏巡りの日・一日お遍路さん」のイベントを予定している。

両脇に下げた「夜久野茶堂　放光院」などの札は、護持会員の波多野富則さん（72）が書いた。